HOWA CSRレポート2024

会社紹介

会社概要

- 会社名　株式会社HOWA（Howa Co.,Ltd.）
- 代表者　代表取締役社長　髙田　智行
- 本社所在地　愛知県春日井市味美白山町2丁目10番地の4
- 設立　1955年（昭和30年）3月7日
- 事業内容　自動車用内装部品の企画・開発・製造・販売
- 資本金　3億240万円
- 売上高　928億円（2023年度　グループ全体）
- 従業員数　3,408名（2024年3月末　グループ全体）
- 主要製品　ヘッドライニング、ダッシュインナーサイレンサー、サンシェードトリム、ドアトリム、ラッゲージトリム、EVバッテリー構成部品、その他NV製品

SDGsへの貢献

「持続可能な開発目標（SDGs）」は、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択され、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された「2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標」です。

この目標は、17のゴール・169のターゲットから構成されており、「地球上の誰一人取り残さない」ことを提唱しています。当社においても、事業活動やCSR推進を通じ、目標に向かって積極的に貢献していきます。

目次

会社紹介（会社概要、SDGSへの貢献、主な沿革）・・・・02
グローバルネットワーク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・04
製品紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・06
数字で見るHOWA・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
経営理念、CSR方針、トップメッセージ・・・・・・・・・・12
ESGとHOWA の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
社会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
ガバナンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

主な沿革

1955年

豊和繊維工業株式会社設立
（愛知県名古屋市中区御幸本町）

1960年

春日井工場新設
（愛知県春日井市）

1961年

本社移転（愛知県春日井市）

1965年

磐田工場新設（静岡県磐田市）

1970年

厚木工場新設（神奈川県厚木市）

1978年

岡崎工場新設（愛知県岡崎市）

1987年

東豊産業（韓国）設立

1992年

（株）豊和繊維九州製作所設立
（福岡県嘉麻市）

2000年

日豊化成（株）岐阜工場竣工

2003年

（株）豊和繊維岩手製作所
設立（岩手県胆沢郡）

2004年

Howa USA, Inc設立
（米国インディアナ州）

2005年

天津新明繊維樹脂製品
有限公司設立（中国）

2006年

佛山新明繊維樹脂製品
有限公司設立（中国）

2007年

American Howa Kentucky,
Inc（AHK）設立

2008年

（株）豊和繊維栃木製作所設立
（栃木県那須塩原市）

Howa USA Holdings,
Inc設立（米国ミシガン州）

広東豊明商貿有限公司設立（中国）
中国現地工場の営業、
受注活動開始

2009年

武漢新明繊維樹脂製品
有限公司設立（中国）

2010年

Howa Thailand Co., Ltd.設立（タイ）
Howa USA, IncをAHKに統合

2011年

豊和繊維研発（佛山）
有限公司設立（中国）

2012年

PT. Howa Indonesia 設立
（インドネシア）

Howa Tramico SAS 設立
（フランス パリ）

2013年

Howa Mexico, S.A. DE C.V.
設立（メキシコ）

Howa Canada Manufacturing,
Inc. 設立（カナダ）

2014年

襄陽新明繊維樹脂製品
有限公司設立（中国）

2019年

商号変更
（当社および国内関連会社）

2020年

東京支社新設

2021年

東京支社に厚木システム
開発センターを統合

2024年

武漢新明繊維樹脂製品有限
公司と襄陽新明繊維樹脂製
品有限公司が合併

グローバルネットワーク

フランス France

Howa Tramico SAS
Brionne工場

Howa Tramico SAS
Coulomb工場

Howa Tramico SAS
Pullflex SAS

ロシア Russia

LLC Howa Tramico

ポルトガル Portugal

Howa Tramico Automotive, Unipessoal Lda

スペイン Spain

Howa Tramico SAS
s.o. Isofel

スロバキア Slovakia

Howa Tramico Slovakia
s.r.o.

アメリカ America

American Howa Kentucky, Inc. Kentucky Plant

American Howa Kentucky, Inc. Ohio Plant

American Howa Kentucky, Inc. Mississippi Plant

American Howa Kentucky, Inc. Georgetown Plant

Howa USA Holdings, Inc

メキシコ Mexico

Howa Mexico, S.A. DE C.V.

カナダ Canada

Howa Canada Manufacturing, Inc.

世界13ヶ国の地域に33拠点

Global Network

中国 China

天津新明繊維樹脂製品
有限公司

佛山新明繊維樹脂製品
有限公司

武漢新明繊維樹脂製品
有限公司

武漢新明繊維樹脂製品
有限公司襄陽分公司

豊和繊維研発（佛山）
有限公司

広東豊明汽車零部件
有限公司

韓国 Korea

Howa Korea, Ltd.

タイ Thailand

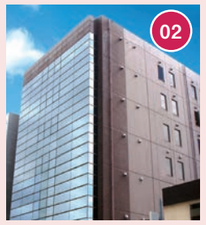
Howa Thailand Co., Ltd.

インドネシア Indonesia

PT.Howa Indonesia

日本 Japan

本社


東京支社

大阪営業所

栃木営業所

磐田工場

岡崎工場

株式会社HOWA九州

株式会社HOWA岩手

株式会社HOWA栃木

株式会社HOWA岐阜

製品紹介

当社は、快適な車内空間を創造することを目指し、自動車メーカーのニーズを先取りした製品を提供し続けています。
内装部品では、軽量化ウレタン基材によるヘッドライニングで業界トップシェアを長年維持しています。
ノイズや振動を吸・遮音するNV部品では、提案力と生産技術力でお客様より高い評価をいただき、特にダッシュインナーサイレンサーで業界トップクラスのシェアを誇っています。
また、EV電池バッテリー部品では、メーカーのニーズに対応した製品の開発と生産を行っています。

ヘッドライニング

車内の天井部分のトリム（内張り）です。心地よい見た目や触感に加え、音や熱の侵入を抑える製品です。

ヘッドライニング

ヘッドライニング（パノラマルーフ）

ヘッドライニング／ヘッドライニング（パノラマルーフ）

1970年、国内で初めて当社が開発しました。自社生産されたウレタンを使用しています。
軽量で、吸音性、耐熱性、耐湿性に優れ、寸法安定性も高く、特に大型のヘッドライニングに適しています。

サンシェードトリム

ガラスサンルーフからの太陽光や紫外線を遮断し、快適な車内空間を実現します。

サンバイザー

普段はフロントウインドシールドの上に保持され、運転時の日差しを遮ります。

サイドトリム

車両室内サイドの内張りで、自動車のインテリア空間を構成する製品です。

ドアトリム

各ドアの室内側にセットされるトリムです。
衝撃吸収・外部からの侵入音を抑えます。

ボデーサイドトリム

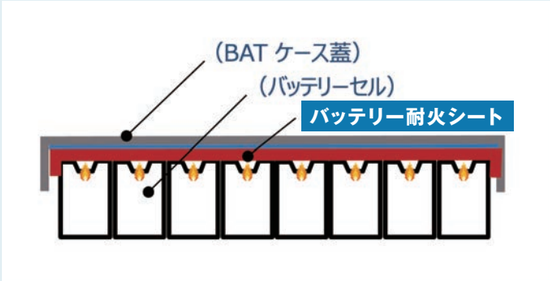
室内側壁面のドアを除く部分のトリムです。
ドアオープニング部分の車体鉄板側外周に取り付け、衝撃吸収・車内密閉・見栄え向上等の機能を有する部品です。

EV バッテリー構成部品

EVバッテリーの絶縁、安全保護などに使われる製品です。

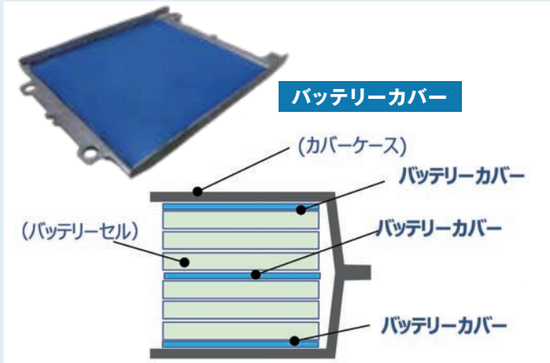
バッテリー耐火シート

バッテリーに異常な負荷が掛かった際、バッテリーセルから発する熱がバッテリーケースに伝わることを遅らせる等の延焼防止の役割を担っています。



バッテリーカバー

バッテリーセルの集合体の骨格を形成。車両衝突時などにバッテリー本体に外力が加わった際、バッテリーセルを保護したり隣接するセルへの通電を防ぐ絶縁性能を担っています。



■開発取組のポイント

継続的な材料の発掘と集積を組み合わせ、長年培ってきた内装部品のASSY技術や品質保証力をベースに量産化までを考慮した提案を行なっています。

新材料、新工法、新設備、仕入先に至るまで、従来の概念に捉われない全く新しい付加価値を創出しています。

製品紹介

トランク・ラゲッジトリム

衝撃や振動を緩衝する制振機能と外部からの侵入音を抑える吸・遮音機能をあわせ持つ製品です。

バックドアトリム

バックドアにセットされるトリムです。
制振材、吸・遮音材として外部からの侵入音を低減するほか、荷物への衝撃や振動を緩和します。

パッケージトレイトリム

リアシートとリアウインドウ間に装着される製品です。トランクルームからの騒音の侵入やボディの振動を抑えるとともに、カーオーディオのスピーカーやストップランプの設置場所としての機能を担います。

デッキサイドトリム

デッキ側面（リアクォーターピラー付近）にセットされるトリムです。制振材として外部からの振動および侵入音を抑えます。

ラゲッジボード

荷室・ラゲッジスペースの高さを調節するためにラゲッジルームの床面に配置する部品です。
近年、荷室の多目的な利用に対応した提案を行っています。

トノボード

乗用車の荷室を覆うカバーです。
主に布やビニール、革、プラスチックでできており、乗用車ではステーションワゴン、SUV、ハッチバックなどのモデルに装備されています。
カバーの多くは、使用しないときの着脱や巻取りが可能となっています。

ラゲッジボックス

ラゲッジフロア下部に用意された樹脂成形の収納ボックスで、スペアタイヤカバーの役割に加えて、工具や小物を収納することができます。

NV部品

騒音や振動を軽減し、車内空間を快適に保つ機能製品です。

ダッシュインナーサイレンサー

ダッシュパネルの車室内側に装着される防音材です。
エンジンノイズ、ロードノイズを低減します。

ダッシュアウターサイレンサー

ダッシュパネルの車室外側（エンジンルーム内）に装着される防音材です。エンジンノイズを吸音します。

エンジンフードサイレンサー

ボンネットのエンジンルーム側に装着される防音材です。車のエンジンノイズを吸音します。

フェンダーライナー

ホイールハウスに装着される防音材です。
走行時のタイヤ騒音を低減し、泥や石跳ねからボディを保護します。

エンジンアンダーカバー

エンジンルームの下部に装着される防音材です。
車内外騒音を低減し、空力性能を向上させることで燃費向上に貢献します。

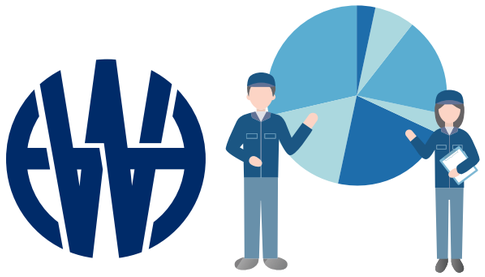
フロアアンダーカバー

車両の下に装着される防音材です。車内外騒音を低減し、空力性能を向上させることで燃費向上に貢献します。

■ダッシュインナーサイレンサー　フィルム技術

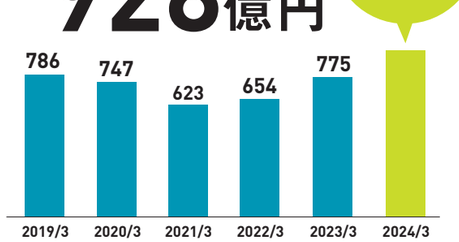
ダッシュインナーサイレンサーは、主にエンジンルームからのノイズを防ぎます。当社は、フェルトとフェルトの中間層にフィルムを入れた高性能な防音材を開発しました。この構成で特許を取得し、ダッシュインナーサイレンサーとして多くの車両に搭載しています。

数字で見るHOWA



売上高（連結）

928億円



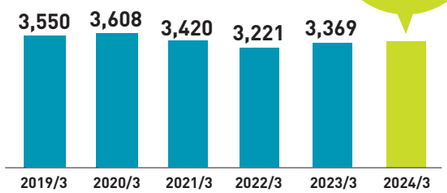
会社創立

69周年
（2024年3月）

創立日1955年3月7日
（昭和30年）

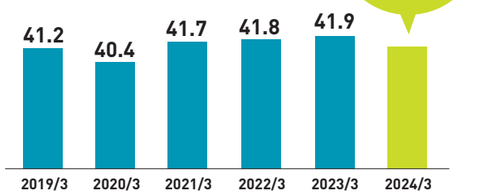
社員数（グループ全体）

3,408人



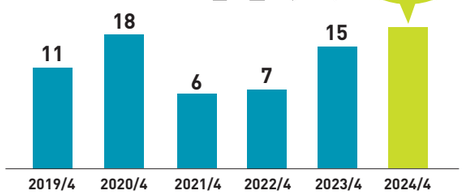
平均年齢（単体）

41.3歳



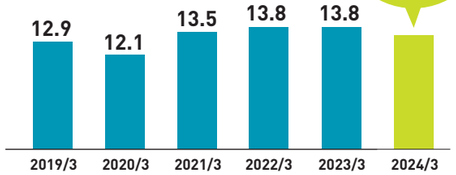
新卒採用者数（単体）

19人



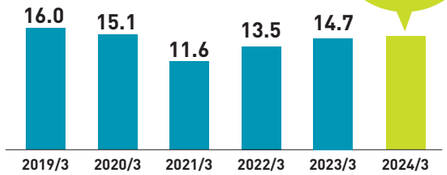
平均勤続年数（単体）

13.3年



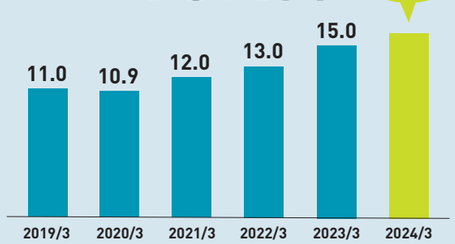
平均残業時間（単体）

14.9h/月



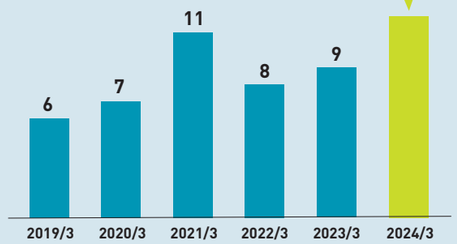
有給休暇取得日数（単体）

16.1日



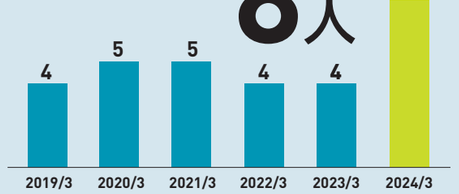
育児短時間勤務者数（単体）

（男性1名・女性11名）12人



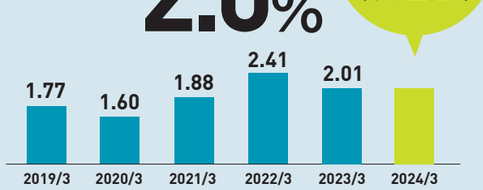
育児休業取得者数（単体）

8人



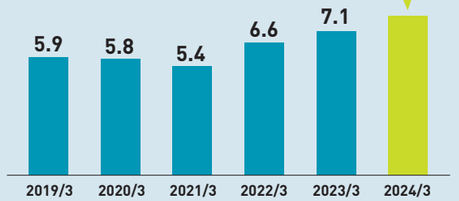
障がい者雇用率（単体:全社員）

2.0%



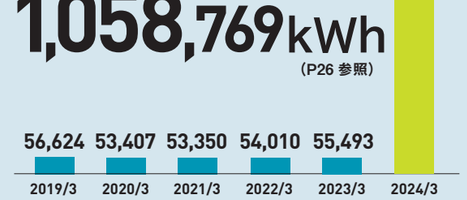
60歳以上従業員比率（単体:全社員）

7.9%



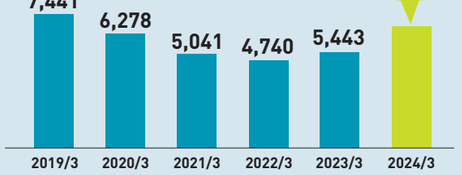
太陽光発電量（国内グループ）

1,058,769kWh
（P26参照）



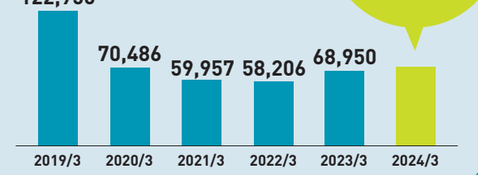
産業廃棄物排出量（国内グループ全体）

6,684t



水使用量（国内グループ全体）

70,711kl



（単体）⇒ ㈱HOWAの正社員のみ、㈱HOWAのみ　（単体:全社員）⇒ ㈱HOWAの正社員の他、嘱託社員等を含む

経営理念／CSR方針 トップメッセージ

経営理念

1. 豊かな人間性と協調の精神によって会社を運営する。
2. あらゆる環境の中でも存続・発展しうる強固な企業基盤を確立する。
3. 常に業界のトップレベルとしての評価と信頼される製品づくりに総力を挙げる。
4. 従業員の福祉の向上と社会の発展に貢献する。

CSR方針 ～ 信頼される企業とは ～

当社は経営理念を具現化した5つのCSR方針（企業の社会的責任への取組方針）を定めています。このCSR方針に基づき企業活動を展開し、社会の持続可能な発展に貢献することは企業の社会的責任であるとともに、当社の発展にも繋がるものと考えています。

1.お客様

安全かつ高い品質の製品を安定して供給することによりお客様の期待に応え、ニーズを先取りした製品を開発することにより業界の発展に貢献します。

2.お取引先

お取引先を尊重し、公正、透明で誠実な取引を維持し、相互信頼に基づく共存共栄の実現に努めます。

3.従業員

安全かつ健康的な労働環境の提供に努め、人権や多様性を尊重し、従業員個々の能力開発を支援することを通して、従業員と会社がともに成長できるよう努めます。

4.環境

CO_2排出量の削減や、水資源保全および資源の再利用推進を通して環境負荷低減に努め、持続可能な地球環境の実現に貢献します。

5.社会

拠点を置く国や地域の文化や慣習を尊重し、社会と調和のとれた発展に努め、法令順守のみならず企業倫理の徹底を図り、社会の信頼に応える経営に努めます。

Top Message トップメッセージ

2023年の自動車業界を取り巻く環境は、車載半導体不足による供給網（サプライチェーン）の混乱が和らいだことに加えて、需要の増加が寄与し、国内外での日系自動車メーカーの生産台数が大幅に回復しました。

こうしたOEM生産の回復により、当社におきましても生産が大幅に増加し、過去最高の売上を達成いたしました。また、これまで本社と工場が一体となって取り組んだ「全社一丸収益改善活動」やHCAR（競争力強化活動）の成果などが売上増加で顕在化したことが大きな要因となり、大幅な増益を達成しています。

当社における23年度の業績は、国内・海外ともに売上が伸び、海外部門と連結ベースで過去最高の売上を達成することが出来ました。HOWAは過去10年以上に渡り、客先の海外への生産移管による国内生産の減少で、いかに生産を増加させるかが大きな課題でしたが、21年度から漸く上昇に転じ、22年度は前年比16%、23年度は30%と売上が増加し、過去のピークを大幅に越えました。同時に利益においても従来は海外の利益に依存していましたが、国内売上の回復と上記の改善活動の成果により収益が順調に増加し、国内が当社収益への貢献度最大の地域となりました。

新規受注活動に関しましても、国内を中心に北米、アセアンなどで、今まで以上に多種類の部品を受注しました。今後もHOWAを持続的に成長させていくために、引きつづき収益性を重視した受注活動に務めて参ります。

一方、グローバルでさまざまな社会・環境課題が深刻化し、持続可能な社会との調和が取れた企業の発展が求められています。こうした中でHOWAは、EV（PHEV、HEV、BEV、FCV）化をはじめとする自動車業界の大変革期に応じた新たな技術開発の提案、カーボンニュートラル（CN）を目指した製品の提供などの事業を通して、より一層、人と自然が共生する持続的な社会の構築を目指し、社会の課題解決に貢献していきます。とくに、SDGsとしてのCNなど持続可能な社会の実現に向けた活動は、自動車業界における競争力の強化に資するものであり、政府の高い目標にも果敢に挑戦しながら様々な方策を講じて参ります。

ひいては、素材や部品製造、物流、エネルギー製造、リサイクル、廃棄など、車のライフサイクルすべてのプロセスを踏まえ、CNに寄与する開発・取組を推し進めるとともに、秀でた商品を作り出し、お客様のニーズの変化に対応した商品開発に取り組むことが重要だと考えています。

とくに、環境負荷の少ない素材開発やゼロエミッションを目指す製造技術の開発には、1955年創業以来のHOWAのアイデンティティである「人と環境にやさしい」、「環境保全に根差したものである」という創業理念のもと、脈々と受け継がれてきた歴史と実績があります。これらを基にしながら、持続可能な地球環境の実現に呼応し、かつ快適な自動車内装部材を永続的に追求して参ります。

また、従来より徹底した社内リソースの有効活用などによるスリム化・効率化を行い、生産性向上とCO_2・コスト削減につなげています。更には、資源を最大限に有効活用し循環させるサーキュラーエコノミーに向けて、素材の置換え、新素材の開発、製品の軽量化などあらゆる面から改善、改良を日々積み重ね、自らの強みを活かしたビジネスモデルをグローバルに展開していきます。

これらの施策によりお客様から選ばれ続けるサプライヤーになることで、置かれた厳しい環境下を生き抜き、そして成長していけると考えています。

自動車業界の現況としましては、EV化が加速する中、BEV、PHEV、HEV等がいつまでに、どの程度までのマーケットシェアになっていくのか、中国・欧米をはじめ世界的に一貫した予想が立てにくい「混沌とし予測困難な時代」を迎えています。この様な時代には「変動への対応力ある強い組織」が求められ、強い組織を創るためには、個々が強くなることが肝要となります。

そこで、当社においては、経営理念である「企業は人なり」のもと、先取の気鋭と独創性に富んだ人財の育成をベースに、「大変革期を臨機応変に対応しHOWAを成長させることができる人財」、「現状分析から対策を考え新しいチャレンジができる人財」の育成に努めています。同時に法令順守や人権尊重などコンプライアンス意識の啓蒙にも積極的に取り組んでいます。

自動車内装部品・NV部品分野での総合的な部品メーカーとしてリーディングカンパニーとなるべく、信頼性と競争力ある製品づくりを通じた強固な経営基盤の確立、ならびに環境問題を含めた社会的諸課題への積極的な貢献は、企業の存続、発展のために省くことのできない重要課題であり、まさに「車の両輪」です。双方それぞれに重点を置き、引き続き挑戦して参ります。

このような当社の施策をご紹介し、皆さまに少しでもご理解を深めていただきたく、本年も「HOWA CSRレポート」を発行致しました。ぜひご一読いただきますようお願い申しあげます。

代表取締役社長
高田 智行

ESGとHOWAの取組

当社は、生産活動等の製品を生み出す一連の過程の中で、社会に様々な影響を及ぼすことを認識し、また、ステークホルダーの皆様からのニーズに応え、「企業の社会的責任を果たすべく取組」を行っています。
ESG（環境、社会、ガバナンス）や、SDGs（持続可能な開発目標）等の視点を踏まえた当社のCSR方針のもと、日々の活動において積極的に実践し、社会の持続可能（サステナブル）な発展に貢献していきます。

当社が掲げたCSR方針に関連する主な取組項目を、ESGとSDGs目標の観点で分類することで、社会に貢献する意義の理解を深め、新しい課題の発見に繋げていきます。

CSR方針	HOWA取組項目	ESG分類	関連するSDGs
お客様 安全かつ高い品質の製品を安定して供給することによりお客様の期待に応え、ニーズを先取りした製品を開発することにより業界の発展に貢献します。	●製品開発の重点取組 ●品質方針、品質保証体制、IATF16949認証取得 ●製品の開発 ●技術展示会の開催 ●新規ビジネス ●安定供給への取組（BCP） （火災防止への取組、社員の安全確認） ●緊急事態対応訓練の実施 ●個人情報保護	S G	8 9 11 12 13 16
お取引先 お取引先を尊重し、公正、透明で誠実な取引を維持し、相互信頼に基づく共存共栄の実現に努めます。	●お取引先への取組 ●サプライチェーンに向けた健康サポート	S	1 8 9 10 12 13 16
従業員 安全かつ健康的な労働環境の提供に努め、人権や多様性を尊重し、従業員個々の能力開発を支援することを通して、従業員と会社がともに成長できるよう努めます。	●QCサークル活動 ●ハラスメント防止への具体的な取組 ●労使に関わる取組 ●ワークライフバランス社内制度 ●有給休暇の取得促進と残業時間の削減に向けて ●育児休業と介護休業 ●健康経営への取組 ●定期健康診断、歯科検診 ●ストレスチェックの実施 ●安全衛生 ●取締役の安全健康決意表明 ●本社・工場での安全衛生の取組 ●安全道場 ●安全・挨拶運動 ●空調服の導入 ●リスクアセスメント ●火災防止への取組 ●障がい者の活躍 ●グローバル人材、女性の活躍 ●シニア層の活躍 ●人事制度 ●研修について ●防災訓練の実施 ●救出、救護訓練の実施 ●防災備蓄品の管理	S G	1 3 4 5 8 10 16
環境 CO_2排出量の削減や、水資源保全および資源の再利用推進を通して環境負荷低減に努め、持続可能な地球環境の実現に貢献します。	5Rsの取組、ライフサイクルでのCO_2削減活動、環境規制に対応した重点取組 ●製品素材の置き換え、軽量化の推進 ●廃材を再利用した商品開発 ●廃棄製品のリサイクル、製品材料のリサイクル ●リサイクル断熱材の商品化 ●その他工場におけるリサイクル活動 ●生産工程・工場設備見直しによるCO_2排出量削減 ●物流の見直しによるCO_2排出量削減 ●社有車に電気自動車を導入 ●照明のLED化 ●再生可能エネルギーの利用 ●最適な再利用・リサイクルを可能とする循環モデルの構築 ●化学物質の管理 ●水質汚染低減 ●ISO14001の取得 ●環境情報等の積極的な開示	E	3 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
社会 拠点を置く国や地域の文化や慣習を尊重し、社会と調和のとれた発展に努め、法令順守のみならず企業倫理の徹底を図り、社会の信頼に応える経営に努めます。	●SDGsへの取組推進活動 ●紛争鉱物 ●人権の尊重 ●交通安全活動（立哨活動） ●地域との交流 ●情報セキュリティ ●コンプライアンス周知に向けた取組 ●コンプライアンス研修 ●汚職・贈収賄防止 ●内部通報制度	S G	1 3 4 5 8 10 11 12 16

HOWA CSR REPORT 2024

環 境

ENVIRONMENT

環境社会に向けたHOWAの価値創出ロードマップ

現 在 | 2025年 | 2030年 | 2040年 | 2050年

カーボンニュートラル

- 軽量化（材料・製品）
- 省エネ（加工）
- 太陽光発電（導入・利用）
- マテリアルリサイクルを活用した商品化
- ケミカルリサイクルを活用した商品化
- バイオ材料を活用した商品化
- インバーター活用によるエネルギーロス低減
- 断熱施工による エネルギーロス低減
- 次世代新工法の開発
- 再生エネルギー比率の向上
- メタネーション等 ガスの脱石油化
- サプライヤーとの共創
- サプライヤーとカーボンニュートラルに向けた取組活性化
- カーボンニュートラル 次世代基材化
- エネルギーの 脱石油化100%

サーキュラーエコノミー

- リサイクルの材料採用拡大
- 歩留まり及び工程ロス改善
- 廃材を活用した新製品の開発
- 消費後にリサイクルされた材料（PCR材料）の採用拡大
- バイオ材料の活用
- 梱包・副資材等工程内のリユース拡大
- ELV規制に対応した新製品の開発
- 企業連携での廃材を活用した新製品の開発（加速）
  - HOWA
  - 他 社
  - NEW 製品化
- 産廃ゼロ企業の実現

次世代自動車に向けた新製品開発

- EV向け新製品の開発
- 内装とNVを融合させた新製品の開発
- 熱マネジメント新製品の開発
- モジュール化、システム化した高付加価値製品の開発
- 新規ビジネスでの 収益拡大

HOWA CSR REPORT 2024

環 境

ENVIRONMENT

5Rsの取組

「人と環境にやさしい」、「環境保全」に根ざしたものは、創業以来当社の製品づくりのアイデンティティとなっています。環境保全や資源の有効活用をテーマに、創業以来数々の技術革新を行ってきましたが、地球資源の有限性を認識し、環境に配慮した資源の有効活用をテーマに、現在も全社を挙げて「5Rs」に取り組んでいます。

Refine 材料・設計の変更による Reduce、Reuse、Recycle の拡大。
Reduce 廃棄物を発生させない設計・生産技術の展開。
Reuse 廃棄物の同一工程内再使用。
Recycle 別用途での廃棄物有効利用。
Recovery エネルギー資源としての活用。

環境規制に対応した重点取組

(1)カーボンニュートラル(CN)

■ OEMのCO_2削減目標達成できる新製品の展開

・製品素材での CO_2削減 ⇒リサイクル材、低排出素材へ切り替えた新製品の開発
・軽量化による CO_2削減 ⇒軽量化構造、軽量素材へ切り替えた新製品の開発
・生産での CO_2削減 ⇒CO_2低減新工法、省エネ、再エネ導入

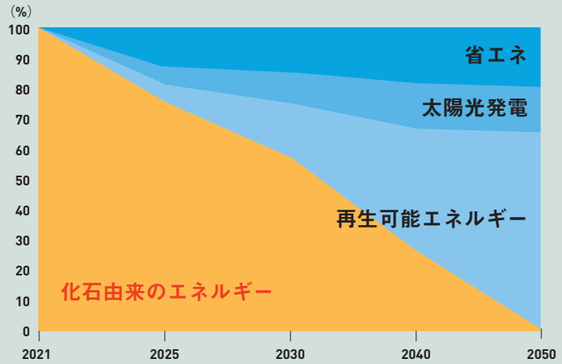
(2)サーキュラーエコノミー(CE)

■ ELV規制対応できる新製品の展開

・市場回収リユース材の確保 ⇒回収衣料や廃車前自動車部品回収ルート確保
・市場回収材を使った製品開発 ⇒回収衣料を材料に活用した新製品の開発

カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーに対応した新製品開発の推進

HOWAの再生エネルギー比率ロードマップ



■ KPI：重要業績評価指標 2030年 CO_2・廃棄物・水 削減目標値

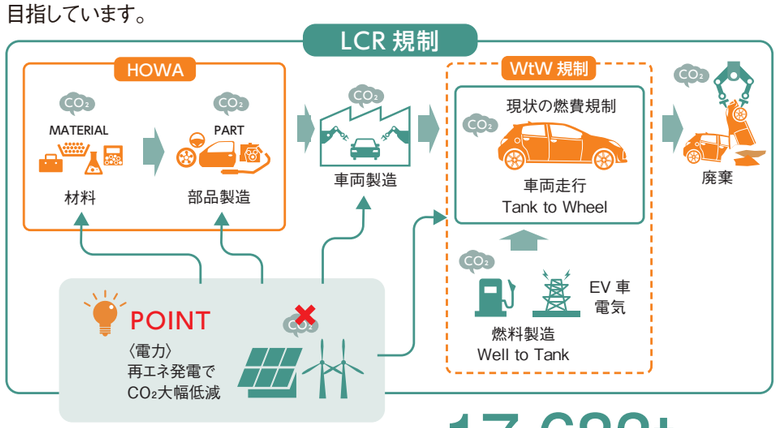
気候変動	HOWA グループCO_2排出量ゼロにチャレンジ	KPI	CO_2排出量を2030年迄に 36%削減 (2021年比)
		取組	・軽量化及びリサイクル材料活用 ・徹底した省エネ活動によるエネルギー使用量の削減 ・太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギー導入
資源枯渇	HOWA グループ廃棄物ミニマム化にチャレンジ	KPI	産業廃棄物量を2030年迄に2割削減 (2021年度の国内生産数量をベースにした理論値)
		取組	・最適な再利用・リサイクルを可能とする循環モデルを構築し、廃棄物を減らすとともに廃棄時の土壌への影響を低減する。
水環境	HOWA グループ水質汚染ゼロ、水使用量ミニマム化にチャレンジ	KPI	2030年迄に水使用量 10%削減 (2022年度比) 汚染物質流出事故ゼロ
		取組	・全社での節水活動、排水浄化再利用や雨水利用などによる循環サイクルの構築 ・ISO14001 環境マネジメントシステムに基づく、各工場での排水処理設備の日常チェック、定期的な事故を想定した訓練。

▸ CO_2排出量削減

■ CO_2排出量(Scope1+Scope2)

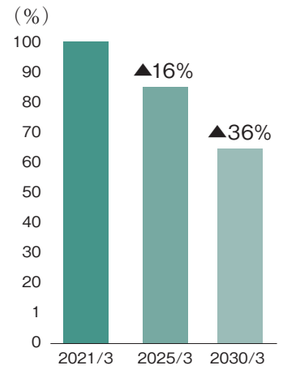
【ライフサイクルでのCO_2削減活動】

HOWAは、車の素材や部品製造での取組を通じて、ライフサイクル全体でCNを目指しています。



(2023年度・国内グループ全体) **17,683t**

■ CO_2削減原単位目標



環 境

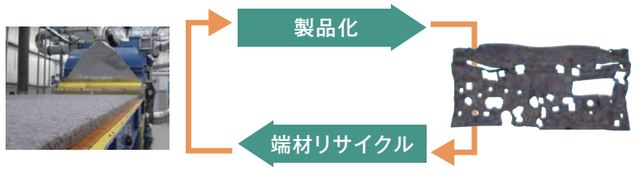
ENVIRONMENT

製品素材の置き換え、軽量化の推進

製品材料CO_2排出量の見える化を行い、製品開発におけるCO_2排出量の少ない素材への置き換え（リサイクル材料・低炭素素材への置き換え）に取り組んでいます。その他、燃費向上に欠かせない製品の軽量化を図り、CO_2排出量削減に取り組んでいます。主に、最新のNV解析技術によって最適防音材を検討し、理想的な軽量防音材を開発しています。

■フェルト

ダッシュサイレンサーなど自動車の吸音部品で発生する端材をほぼ100%再利用しています。



活用事例①　岡崎工場、磐田工場での製品端材のリサイクル

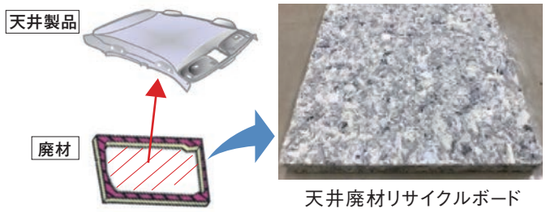
ダッシュサイレンサーの生産時に発生したシート付の外周端材からシートとフェルトを剥がし、それぞれの工程に戻して再利用しています。

（他事業所で不要となったダッシュサイレンサーのシート付の外周端材も回収し、同様に再利用）

活用事例②　廃材を再利用した商品開発の推進

■天井廃材リサイクルボード

産業廃棄物として処理していた天井廃材をリサイクルし断熱材や遮音ボードとして開発しました。
薄いフィルムを表面にはることで、低中周波域の遮音性を向上させ、従来の遮音材と比べ大幅な軽量化を実現させました。



天井廃材リサイクルボード

従来技術

遮音シート+フェルト

表側

裏側

新技術

天井廃材リサイクルボード

表側

裏側

活用事例③　自社工場の騒音対策

■HOWA 自社工場の騒音対策への活用

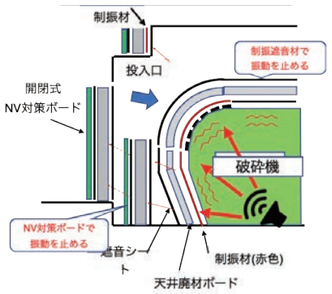
フェンダーライナー端材の粉砕工程では100dB近い低周波音の騒音が発生し、その低減が求められていました。
天井廃材を活用した防音材による騒音対策で25dBの騒音を低減し、作業環境を改善しました。

（db）

	100Hz	200Hz	575Hz	騒音のレベル（参考）
対策前	102	95	99	工事・建築現場、ジェット機の飛ぶ音
対策後	75	73	72	バスや電車の車内

対策後

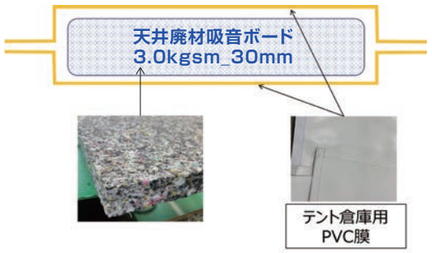
粉砕機周り断面



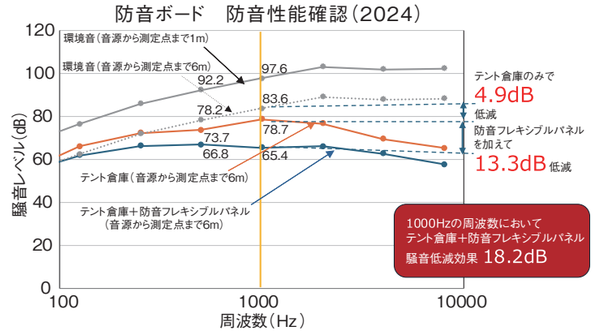
活用事例④　テント倉庫防音シートの販売

株式会社デポレントと協業でテント倉庫用防音シートを開発し、販売を開始しました。
テント倉庫の中に生産設備を入れて使用するユーザー又はテント倉庫内で作業する際に周辺の音が気になるユーザー向けに販売しています。
1000Hz域で18.2dBの騒音低減効果がある商品です。

〈構成〉



防音ボード　防音性能確認（2024）



活用事例⑤　欧州 ELV 規制に向けた製品の開発

2030年欧州ELV規制による市場回収リサイクル材の含有規制に対応したフロアサイレンサーを開発中です。

再生素材：①+②=25%

①市場回収リユース素材	②廃車からの回収素材
⇒18.75% @再生材25%	⇒6.25%@再生材25%

	2030年
市場回収リサイクル材	18.75%
ELVリサイクル材	6.25%
TOTAL	25%

天井廃材リサイクルフロアサイレンサー
市場回収素材や廃車回収材を粉砕し混ぜ固めてELV対応できる唯一の製品

※ELV：end-of life vehicles

環 境

ENVIRONMENT

活用事例⑥　古着と HOWA 廃材を活用したリサイクル断熱材の商品化

衣料用メーカーから回収した古着とHOWAの天井端材を配合させたリサイクル断熱材を商品化しました。店舗の壁などの断熱材に採用されています。

サーキュラーエコノミー／カーボンニュートラル実現へ向けた取組

HOWA九州苅田事業所での（インジェクション製品）廃棄製品のリペレット化

※リペレット化:廃プラスチックを粉砕・溶融して原材料化し、リサイクルすること。

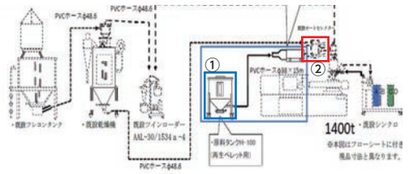
■当社製品

廃棄量（kg / 月）

- 1.6kg：廃棄量 416kg/ 月
- 1.7kg：廃棄量 340kg/ 月
- 4.8kg：廃棄量 960kg/ 月

廃棄量（計）1,716kg/ 月

■リペレット化に伴う設備改造



①再生ペレットのタンクを新設 ＋ ②オートセレクターを1回路から2回路に改造

リペレット化

（リペレット化で、1,716kg×10%は、不良のプラスチックとなる）

1,716kg－不良＝残り1,544kgは、当社プラスチック原材料として再利用しています。

HOWA岐阜での製品端材（スタンピング製品）の100%リサイクル

フェンダーライナーの生産ラインで発生した端材を粉砕し、100%再利用しています。

このほか、当社工場ではエンジンアンダーカバーの端材を粉砕した再利用、ダッシュサイレンサー孔屑、天井廃材を産業廃棄物業者でRPF（廃プラスチック固形燃料）化し、再利用しています。また、VAや不良低減といったReduceの活動も実施しています。

磐田工場やHOWA栃木でのリサイクル活動

- ●ウォーターナイフの受け台の廃棄を産業廃棄物としてではなく、鉄屑として活用いただける企業に届けています。
- ●空ドラム缶、製品台車、ウォータージェット設備の配管ステンレス、電線、治具、型などの鉄屑を産業廃棄物としてでなく、鉄加工品として活用いただける鉄鋼会社へ届けています。
- ●資材使用後に発生する紙管（しかん）が大量の産業廃棄物になっていましたが、資材メーカーと交渉して条件に沿う形で資材メーカーへ返却し、リサイクルを行っています。
- ●樹脂パレットをそのままの形で再利用したり、樹脂成形品として加工して活用していただける企業へ届けています。
- ●サンシェードの製品箱やTP箱、プラスチックパレットを再利用いただける企業へ届けています。
- ●成形機で使用する作動油は定期的な交換が必要で、いらなくなった作動油を再利用できる企業へ有価で引き渡しています。

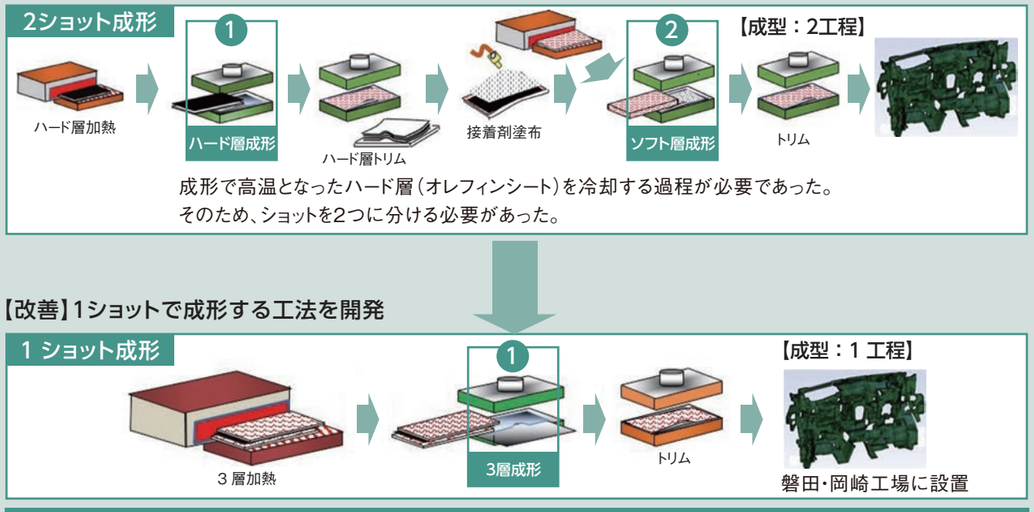
生産工程・工場設備見直しによるCO_2排出量削減

当社は工場における生産活動の中で、以下のようなCO_2排出量削減に取り組んでいます。

■生産工程

- 成形時間短縮
- スライス工数改善による時間短縮
- 集約生産による予熱時間削減
- 型替え回数低減（フォークリフト使用燃料削減）
- 型昇温時間の短縮
- 不良率低減、作業工数削減（効率的な生産方法へ変更）
- 暖気運転時間短縮
- ガラス塗布、発泡工数の効率化

■ダッシュインナーサイレンサー製造過程におけるCO_2削減事例　その①



CO2削減　（コスト競争力向上、設備投資額抑制　2ライン⇒1ライン）

環 境

ENVIRONMENT

■ダッシュインナーサイレンサー製造過程におけるCO_2削減事例　その②

成形プレスとトリムプレスのメイン油圧モーターをインバーター制御にして、成形プレス時で10分当たりの電力量40%削減、トリムプレス時でも同様の40%を削減しました。また、天井成形などの成形プレス時にもインバーター制御を取り入れる予定で、待機・成形時の電力量削減によるCO_2削減を図っていきます。

■工場設備

・工場の屋根の塗装に耐熱塗装　・フェルト設備モーターの小型化　・事務所エアコ ンの省エネタイプへの変更
・外灯の点灯時間調整　・工場内における運搬機の電動（EV）化、からくりシューターの使用

AGV（電気・バッテリー式）による自動運搬と、からくりシューターを用いた空パレットの入替え作業およびウォーキー（バッテリー式リフト）による運搬、荷役作業を行い、ガソリン式対比でCO_2排出量を減らす取組を実施しています。今年度より、使用頻度の高いリフトは、LPGガスからリチウムのバッテリーに変更するなど、更にCO_2排出量を削減する対策を取り入れています。

AGV（電気・バッテリー式）

からくりシューター

電動フォークリフト

リチウムバッテリー

物流の見直しによるCO_2排出量削減

当社は物流活動でのCO_2排出量を削減するために部品などの輸送効率の改善を図っています。物流改善委員会を中心に、トラック積載効率向上（各路線の統合、共同輸送、収容効率向上など）、物流距離の短縮化（納入先の近隣地生産など）に取り組んでいます。また、産業廃棄物運搬時の効率化で、CO_2排出量を削減しています。

HOWA岐阜での物流（輸送）効率化事例

■バーチカル端材をRPF原料として輸送する際に
圧縮ブロックにすることにより輸送効率を高めています。

HOWA九州での産業廃棄物の物流効率アップ事例

■バーチカル端材をトラックの幅寸法に合わせてカット

カット前

カット後

■改善後は積載できる量が増加

磐田工場でのトラック運送時の載積効率化、改善事例

■製品の搬送時など、トラック内の空いたスペースを有効活用するために架台を作製し、
載積効率化を図り、増便の抑制を行っています。

● 社有車に電気自動車などを導入

当社は、2012年に電気自動車（BEV）を導入したり、プラグインハイブリッド、ストロングハイブリッド（e-POWER）、水素自動車を社有車に使用しています。ガソリン使用によって発生するCO_2排出量の削減、排気ガスの抑制に努めています。

●照明のLED化

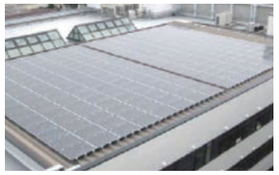
環境負荷低減に向けた取組の一つとして、照明のLED化によるCO_2排出量の削減を進めています。本社では照明全体の70%、岡崎工場では同88%、磐田工場では同78%、グループ会社のHOWA九州では同79%、HOWA岐阜では同90%、HOWA栃木では同97%のLED化が進んでいます。HOWA岩手では23年12月に事務所や応接室、外灯など73台の照明をLEDに交換し、92%LED化となりました。引き続き100%LED化を進めていきます。

環 境

ENVIRONMENT

●再生可能エネルギーの利用

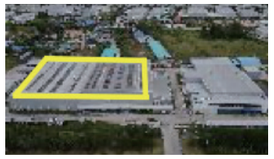
CO_2排出量削減活動の一環として、本社では社屋の屋上と壁面に太陽光発電システムを導入し、全量を本社で消費しています。



HOWA岐阜

HOWA九州

岡崎工場



HOWAタイ

また国内拠点では、HOWA岐阜、HOWA九州、岡崎工場の製造拠点に太陽光発電システムを導入しています。HOWA九州ではCO_2フリーメニュー（原子力発電＋再生可能エネルギー＝100%）の導入をはじめました。海外拠点では、タイ工場で太陽光の電力供給が開始し、他の拠点でもこうした再生可能エネルギーの利用拡大を図っていきます。

国内拠点	パネル総枚数（枚）	出力容量（kW）	年間発電量（千kWh）	※CO_2排出削減量 2023年度 実績（t）	CO_2排出係数
HOWA岐阜	650	293	294	153	0.476
HOWA九州	1,242	559	529	230	0.475
岡崎工場（電力供給開始7月下旬以降）	768	346	180	94	0.476
2023年12月1日より電力供給開始					
HOWA タイ	784	451	575	347	0.599

※環境省からのCO_2排出係数をもとに試算

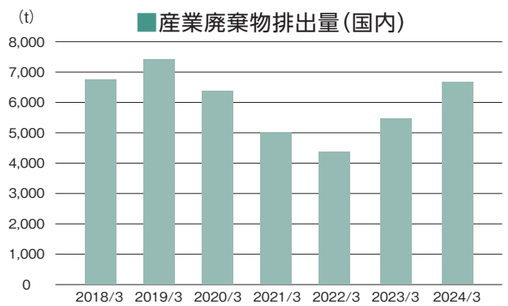
※2023年10月更新のタイ国内でのCO_2排出係数をもとに試算

●最適な再利用・リサイクルを可能とする循環モデルの構築

金属、作動油、紙類をリサイクルし、廃棄物の低減に努めて最適な再利用・リサイクルを可能とする循環モデルを構築しています。

また、廃棄時の影響低減に取り組み、年1回の産業廃棄物処理現場の確認を通じて、廃棄物が適正に処理できているかの確認も実施しています。

産業廃棄物排出量（国内）は2019年3月期の7,441トンをピークに減少傾向にあり、2024年3月期は6,684トンとなりました。



●化学物質の管理

当社はお客様のニーズに適した安全かつ高い品質の製品を安定して供給するため、関連法規情報を収集し、製品の企画段階から原材料に含まれる環境負荷物質を把握する管理活動に取り組んでいます。また、お取引先の環境負荷物質管理体制に関する点検を通じて、お取引先の管理体制向上支援や理解普及活動も行っています。

●水質汚染低減

当社工場では油水分離槽を通して敷地外へ排水するとともに、工場排水の水質測定を定期実施しています。ISO14001環境マネジメントシステムに基づいた設備の日常チェック、定期的な事故を想定した訓練により水質汚染の防止に努めています。

油水分離層

●ISO14001 の取得

当社は工場単位で環境方針を定め、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を認証取得しています。
現在HOWAグループの認証取得工場は5工場です。

ISO14001 認証取得状況

対象拠点	認証取得
磐田工場	2000年11月15日
岡崎工場	2001年11月18日（登録移転2018年8月）
HOWA九州	2003年12月19日
HOWA岐阜	2005年10月 7日
HOWA栃木	2020年 2月28日

●環境情報等の積極的な開示

当社は、環境情報の積極的な開示を通して、各ステークホルダーとの環境コミュニケーションを推進しています。CDPの質問書には2014年より回答を開示しており、EcoVadis社（本社フランス）のサステナビリティ（持続可能性）調査には2016年より回答を開示しています。その他、各省庁や日本自動車部品工業会等からの調査へも積極的に回答を行っています。

SDGs への取組事例（その他）

●当社端材を再利用した障がい者アートパネルの制作

さばえSDGs推進センターに、当社の自動車内装部品端材を用いた漆喰和紙デザインパネルが展示されています。このパネルは、産業廃棄物として処理していた当社の天井端材（自動車内装天井のサンルーフの部分を切り取った余り）を再利用して制作したボードに障がい者が描いたアートが施されています。また、表面に漆喰和紙を巻くことで抗菌・抗ウイルス・消臭の効果を持ち合わせており、SDGs3つの項目に該当する作品となっています。さばえSDGsフェス2023（sabae-sdgs.jp）でも出展されました。

さばえSDGs推進センター展示

また、2023年にオープンした障がい者施設兼ショップ「スタンドトゥギャザー」にHOWA端材を再利用した様々なアートボードの作品が展示されています。

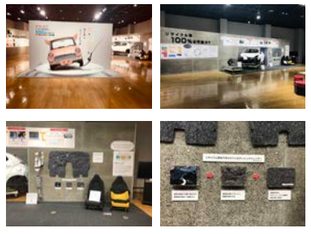
さばえSDGs推進センター
Resource Center for Implementation of the SDGs in SABAE

障がい者アートパネル

- 障がい者アート
- 健康（漆喰和紙）
- ECO（HOWA端材）

●「SDGsを考える」企画展への出展

トヨタ博物館で2022年7月から3カ月間にわたり開催された特集イベント「SDGsを考える」企画展において、当社におけるリサイクルの取組が紹介されました。衣服の製造時に発生する裁断屑を回収し開繊反毛加工した後、フェルト生産からダッシュサイレンサーとして製品化されるまでが紹介され、製品と反毛やフェルトなどの材料が展示されました。引き続きSDGsへの取組を強化させ、経営リスクの回避とともに、社会への貢献や地域での信頼獲得に繋げていきます。



社 会

SOCIETY

製品の品質

●品質保証方針

全社一丸となって品質向上に努め、世界トップレベルの顧客満足度（CS）を実現する

一人ひとりが当事者意識を持ち、品質改善に取り組み『オールHOWAでOnly One品質』を実現する

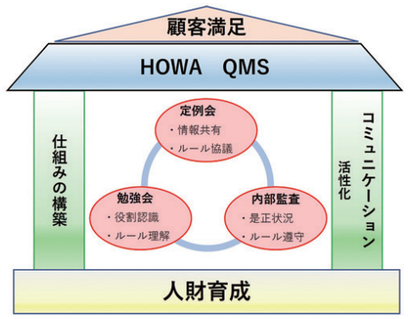
― 重点方針 ―（2024年4月時点）

行動のスピードを上げ、一人ひとりが能動的に動く人づくり・職場づくり

（1）品質の原点に立ち返り、現場管理における基本を徹底する
（2）生準を通じて部門間が結束、高品質HOWAブランドを提供し、顧客の信頼を勝ち取る
（3）再発防止と横展開により未然防止の強化を図り、仕事の質向上から収益力の一躍を担う
（4）法規 及び 顧客要求事項の拡大に対応した品質マネジメントシステムを確立する

●品質保証体制

当社は、顧客満足向上のために継続的改善を続ける品質マネジメントシステム(QMS)を構築しています。
定例会・勉強会・内部監査の実践活動からPDCAを回して、基礎となる「人財」を「育成」し、HOWA QMSを支える「仕組みの構築」「コミュニケーション活性化」の2本柱を軸に体制強化を図っています。



IATF16949 認証取得
株式会社HOWAは、自動車産業の国際品質規格「IATF16949」を取得しています。

●QC サークル活動

当社はQCサークル活動を積極的に推進しています。この活動は、グループで各部署の課題を洗い出し、グループで業務改善に取り組んだり、推進していくための効果的な活動と位置付けています。
また、スタッフの品質管理や改善のための手法の習得、課題解決に必要なスキルの向上を目的としています。
QCサークル活動発表会では、役員全員が参加のもと、厳正なる評価がなされ、改善アドバイスや質疑応答が盛んに行なわれています。
この活動を継続的に行い、更なる企業体質の強化に繋げていきます。

製品の開発

当社は、電動化や法規制強化（騒音、CO_2）、自動運転/コネクテッド等の変化に加え、カーボンニュートラルが加速する中において、「5SENSES TECHNOLOGY」として5つの技術ベクトルで「快適な車室内空間」を提供していくことを目指しています。

1.Beauty Space Design（美空間）
2.Natural Sound Control（自然音空間）
3.Healthy Air Cabin（健康空気）
4.New Function（新機能）
5.New Material（新素材）

特に、車室内外の静粛性ニーズが変化していることに呼応し、当社が得意とする車両音響解析ソフトウェアの開発により最適防音材を提案しています。
2021年9月には、お客様より開発および生産に多大に貢献したサプライヤーへ贈られる「車外騒音規制対応アンダーカバー新基材開発」特別賞をいただきました。
将来の車外騒音規制対応を見据え、高い吸・遮音性能を有するアンダーカバーを低コストで短期開発した点に評価をいただいています。
また、「新加飾」、「新表皮」、「新天井基材」の快適性・静粛性・デザイン性を兼ね備えた製品や、世界初の『抗ウイルス・抗菌・消臭』機能を付与した表皮の開発を通して、快適・安全・安心な車内空間をお客様に提案し、自動車産業の発展に貢献しています。

製品開発の重点取組

❶ 次世代NV商品
❷ 次世代天井
❸ EVバッテリー商品
❹ EV熱マネジメント商品
❺ カーボンニュートラル商品
❻ リサイクル商品
❼ 低コスト新素材・新工法

■新規ビジネス

1. 電池メーカーとの絶縁シートとバッテリーカバービジネス

2. 耐火シート・断熱バッテリーカバービジネス

3. e-Axle 向け防音部品の開発
EVモーターやギア音に対する吸・遮音材を開発しています。

4. 住宅メーカー向け防音・断熱材の商品化
自動車の成形天井廃棄材を使用して、住宅メーカー向けの防音・断熱材「リサイクル吸・遮音断熱材」を開発しました。

5. 吸音パーテーションボード・モバイルファイルボックスの商品化
フェルトメーカーと協業で、日常の気になる雑音を吸収する「吸・遮音性能の高いパーテーション」を開発しました。
今後もフェルトを使用した新規ビジネスの展開を強化していきます。

6. エアバック廃材を活用したフェルトの商品化

7. 工事現場用防音パネルの商品化

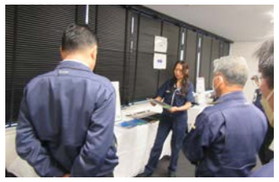
社 会

SOCIETY

■技術社内展示会の開催

より良い製品を社会にいち早く提供するために、開発中の技術について、関係部署からの意見を早期に聞く場として社内展示会を開いています。

2023 年度技術展示会［アイテム数：34］



サプライチェーン

●お取引先への取組

当社は、下請代金支払遅延等防止法などの法令順守とお取引様を尊重し、公正、透明で誠実な取引を遂行して共存共栄に努めています。
お取引先の健康経営への取組を支援すると共に、発注の際にはお取引先が取り組んでいる健康経営を考慮するなどサプライチェーン全体で持続可能な社会の実現に貢献していきます。

●紛争鉱物

鉱物資源の違法採掘や密輸は武装勢力の資金源になっていると言われており、そうした可能性がある鉱物（紛争鉱物）に由来する金属の使用有無については調査報告義務が米国で法制化されています。当社は、お客様の調達方針を共有し、お客様が安心して製品をお使いいただけるよう、紛争鉱物の調査を実施しています。
お取引先の協力を得ながら、サプライチェーンをさかのぼり、紛争鉱物の使用状況を確認しています。採掘場での児童労働などの社会問題もひきおこす懸念のある原材料の使用を回避すべく、お客様やお取引先と連携して取り組んでいます。

人権の尊重

当社は、さまざまなステークホルダーの人権について、従業員一人ひとりが意識を高く持ち、他者への尊厳を保ちながら企業活動を行っています。特に、強制労働・児童労働については、サプライチェーンとして取組を行っており、法律で定められた就業最低年齢を下回る年齢の児童を労働させたり、児童の健康・安全・道徳を損なうおそれのある労働に従事させることは、当社のみならず、グループ各社やお取引先とも共同して防止を図るよう努めています。
児童労働は児童の権利や心身の発育等の観点から不適切であり、国内外の当社拠点における製品の製造過程において、児童労働がなされることのないように周知しています。

●ハラスメント防止への具体的な取組

従業員等の労働環境をよりよくし、各自の有する能力を最大限に発揮できるように、各種ハラスメントの予防に積極的に取り組んでいます。取組の一つとして、全役職員を対象として毎年定期的に開催しているコンプライアンス研修においては、毎年必ずハラスメントに関する項目を取り上げて意識啓蒙を図っているほか、パワーハラスメント予防に特化した研修も管理者向けに実施しています。また、ハラスメントに関して内部通報窓口に寄せられた相談に対しては、事実を確認し、問題解決に取り組んでいます。

●労使に関わる取組

当社は労働組合と、会社の発展と組合員の労働条件の維持改善、健全な労使関係を築くことを目的として、労働協約を締結しています。また、労使間の話し合いの場を設定し、さまざまなテーマについて定期的に協議および意見交換を行っています。

働き方

●ワークライフバランス社内制度

「企業は人なり」の精神に立ち会社を発展させ、社員と家族の幸福を実現することを経営基本方針に掲げ、その実現に向けた取組を展開しています。
具体的には、フレックスタイム制度や、法律で定める基準を上回る年次有給休暇制度や育児関連諸制度、有給の介護休暇など介護関連諸制度を取り入れています。今後も多様なライフスタイルを尊重し、全社員が職場とプライベート両面で充実感を得られるような環境整備を推進していきます。

●有給休暇の取得促進と残業時間の削減に向けて

年次有給休暇の取得促進に向けて、毎月取得状況をチェックし部門長にレポートしているほか、定期的に全社の取得状況を社内に公表しています。労使を交えた取得促進についての話合いの場も設定しています。
また、従業員が健康でいきいきと働ける職場を目指して、長時間労働の防止にも取り組んでいます。

●育児休業と介護休業

育児休業制度および介護休業制度を導入しています。育児休業は1歳6カ月に満たない子と同居し、養育する人が取得できる制度で、男性も取得可能です。また、小学校を卒業するまでの子を養育する従業員が当該子を養育するために申出した場合に、育児短時間勤務も可能です。介護休業は要介護状態にある家族を介護する従業員が介護を目的に取得できる制度です。また、介護短時間勤務も可能となっています。

― 愛知県ファミリー・フレンドリー企業への登録 ―

当社は、愛知県ファミリー・フレンドリー企業として新規登録されました。ファミリー・フレンドリー企業とは、仕事と育児・介護・地域活動など仕事以外の活動を両立できるよう積極的に取り組む企業のことです。従業員が仕事と生活の調和を図ることができるよう積極的に取り組む企業で、一定の要件を満たす場合に登録できます。
HOWAグループでは、今後も多様なライフスタイルを尊重し、全社員が職場とプライベート両面で充実感を得られるような環境整備を推進していきます。

愛知県ファミリー・フレンドリー・マーク

社 会

SOCIETY

従業員の健康

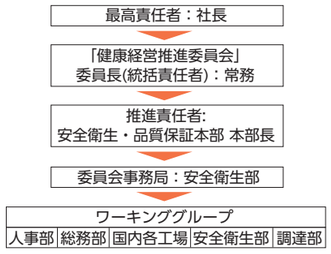
●健康経営への取組

当社は、社員の健康を経営課題と捉え、健康維持・増進に取り組むことが社員の活力向上や生産性向上等、組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上や組織としての価値向上へ繋がるという考えのもと、「健康経営」を推進しています。
2021年7月に「健康宣言」を公表し、健康経営推進体制を整えました。各自が自身の健康に配慮することはもとより、全社を挙げて社員の健康維持・増進に取り組み、意識を高めていくことで、今後の継続的で安定した事業の発展を図ります。

— 健康宣言 —

当社は車室内の快適空間を創造するとともに、車外騒音規制に対応した製品を追求し、明るく活気のある職場づくりに努めます。元気な職場づくりには、社員一人ひとりの心と体の健康が最も重要と考えます。仕事のやりがい、人生の生きがいは会社がもたらすところが大きいと感じます。社員がモチベーションを維持し、チャレンジする事が会社の成長にもつながります。「社員の健康に満ちた笑顔と、活気ある元気な職場」の実現に向けて取組を続けていきます。

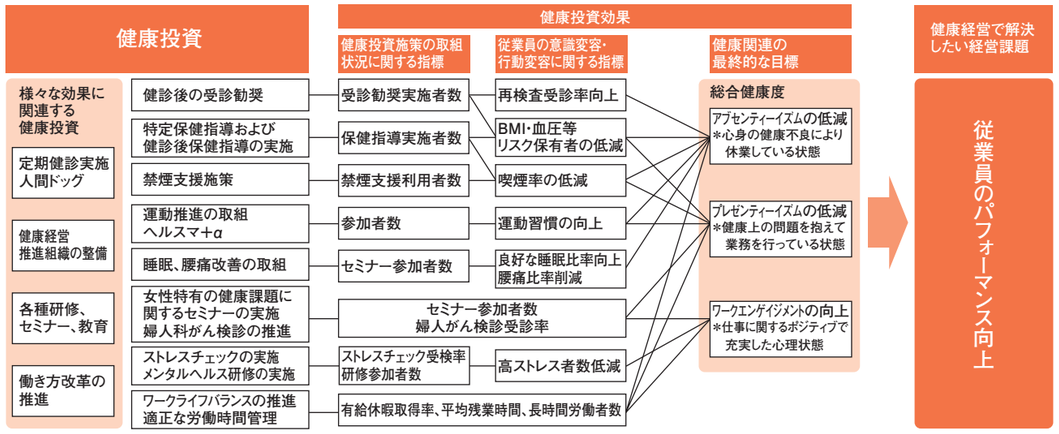
■推進体制



2024 健康経営優良法人 Health and productivity　2024 健康経営優良法人 Health and productivity

2022年の認定以来、健康維持・増進施策の改善、向上を図ってきました。2023年度からは推進委員会の設置にて活動を強化しランクアップに繋げています。今後は従業員の高齢化も踏まえ、生活習慣病の予防、パフォーマンス管理に注力し全ての従業員が心身ともに健康で安全に業務に取り組めるよう更なるレベルアップに努めていきます。

■戦略マップ



●定期健康診断

人生100年時代、長く働き続けるためにも健康の維持はとても重要です。当社ではグループ企業も含め全従業員が年1回健康診断を受診して自らの健康を管理できるよう助力しています。また、特定の年齢層を対象にがん検診をオプションで付加し、人間ドック受診希望者で特定の年齢層にあたる人には費用補助を行っています。

2023年度実績

定期健康診断(人間ドック含む)受診率	99.3%
精密検査受診率	69.4%

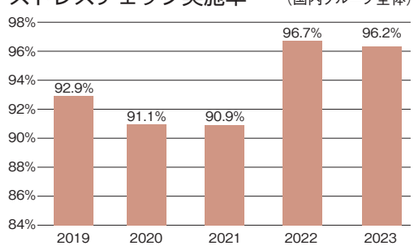
●歯科検診

定期的に歯科健診を受けることは歯と口の健康のみならず全身の健康を維持・増進させることにもつながっていきます。2020年から定期健康診断と同様に歯科健診を毎年実施しています。

●ストレスチェックの実施

セルフケアのさらなる充実および働きやすい職場環境の形成を目的に、労働安全衛生法に基づき、ストレスチェックを毎年1回行っています。Webによる受検後、ストレス状況が表示され、各人別のアドバイスなどがWebサイトで確認できます。

ストレスチェック実施率　（国内グループ全体）



●サプライチェーン向けの健康サポート

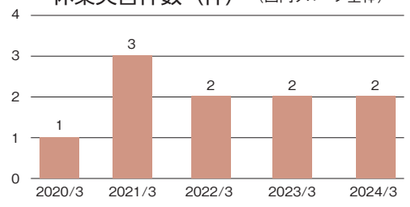
サプライチェーン全体での健康維持・増進の一環として、すべての仕入先へ健康経営の実施状況の確認を行っています。また、コロナウイルスの感染予防対策の周知依頼や感染対策の状況調査を行うなど、健康管理のサポートを実施しています。

労働安全衛生

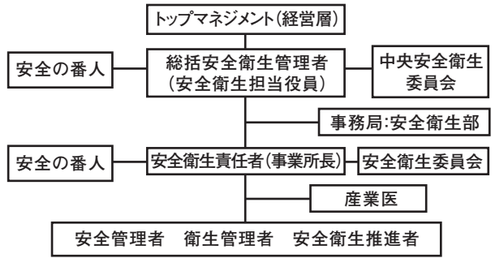
●安全衛生

当社は労働安全衛生法に基づき各事業所に安全衛生委員会を設置しています。安全パトロールや事故を未然に防止するための啓蒙活動、健康維持増進のための活動に日々取り組んでいます。

休業災害件数（件）　（国内グループ全体）



■安全衛生推進体制



●取締役の安全健康決意表明

毎年4月、安全衛生の基本理念と安全衛生方針である「安全と健康はみんなの責任である」「明るく楽しく、健康で災害の無い職場をつくり上げる」を実現するために全取締役の思いを表明しています。髙田社長の「毎日安全、心身ともに健康」を筆頭に各取締役の安全に対する強い思いが表れています。

社 会

SOCIETY

●本社・工場での安全衛生の取組

安全衛生管理年間計画の作成、進捗確認、マネジメントレビューにより、PDCAを実行しています。目標が達成できなかった内容は次年度に挽回する目標を立てることとしています。安全最優先の風土づくりとして、生産課で月1回安全専念時間を設定する他、小集団活動として、残留リスクやハザードの定期確認、KYシート、入社2ヶ月後の安全意識テストなどを実施しています。

【KYT 活動】

本社

工場

●安全道場

部署毎に安全教育計画を立案し、ルール再確認や過去災害の振り返り、新入社員の導入教育を実施しています。挟まれ、巻き込まれの怖さを知ってもらうために、治具装置を用いて疑似の手指を実際に挟ませ、どうなるかを体験してもらうなど安全への意識を高めるための教育を実施しています。

●空調服の導入

当社では、従業員の熱中症の防止および安心安全な労働環境づくりの一環として、小型ファンを内蔵した作業着（空調服）を導入しています。この空調服は、ファンから服の中に外気が取り込まれることで汗を蒸発させ、身体を冷やす効果があります。酷暑環境下での作業を行う者が利用できるよう整備し、当社グループ全体で活用しています。

●リスクアセスメント

当社は労働安全衛生法に基づき3種類のリスクアセスメントを実施しています。

❶ **作業リスクアセスメント（定常作業/非定常作業）**　作業手順に沿った内容でリスク評価を行っています。
❷ **設備リスクアセスメント**　新規設備導入時や設備改造、移設時にリスク評価を行っています。
❸ **化学物質リスクアセスメント**　化学物質の新規採用時にリスク評価を行っています。

■「災害発生プロセス」を踏まえる

厚生労働省のリスクアセスメント等に関する指針において、「災害発生プロセス」は重要な位置づけをされており、全ての労働災害は「災害発生プロセス」によって説明することができるとされています。
当社においても災害の成り立ちを理解し、「危なきを調べる」上で基本理念となる「災害発生プロセス」を十分に踏まえ、リスクアセスメントに役立てていきます。

●火災防止への取組

事業所ごとに防火管理要領を定め、火災から従業員の命と会社の資産を守り、地域やお客様に影響が及ばないように努めています。防火管理者、火元責任者、自衛消防隊の役割を明確にし、消火設備の点検や従業員の遵守事項を定めるとともに、本要領に即った防災訓練を実施し、防火体制の強化を図っています。
また、部品メーカーで発生した爆発事故をうけ、当社でも同じような事故が起きないよう、経営層、工場長および防火に関連のある部門役員など計16名がトヨタ自動車「防火・防爆考動館」を訪問し、火災・爆発の撲滅に向けた対策を学びました。学んだことを職場で実践し、職場全体で防災に対する意識を高めていきます。

ダイバーシティ

●障がい者の活躍

障がい者雇用人数
（重度障がい者慮後）　2024年4月 **15名**

当社は、CSR方針に人権や多様性の尊重を掲げており、様々な障がいをもった方々が働きやすい職場環境づくり、生き生きと自立して働ける職場づくりに積極的に取り組んでいます。この一環として、障がい者職業生活相談員を2名配置しています。採用活動においても、地元ハローワークのご協力を頂きながら積極的に行っています。

また、地元の高等特別支援学校との関係を強化し、同校の実習希望者を積極的に受け入れ、2024年4月に2名を採用しました。今後も、障がい者の方々の社会進出の一助となれるよう、働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、法定雇用率の安定的な達成に向けて採用活動に取り組んでいきます。

■障害者雇用支援マークの取得

「障害者雇用支援マーク」は、公益財団法人ソーシャルサービス協会が障がい者の就労支援ならびに在宅障がい者就労支援を認めた企業・団体に付与するマークで、当社はこの認証を取得しました。

●グローバル人材、女性の活躍

当社は新卒、中途に関係なく、外国籍社員を積極的に採用しており、アジアをはじめ多くの外国籍社員が在籍し、各部門で活躍しています。また、HOWAグループは海外に23の拠点を有しており、多くの現地社員が活躍しています。グローバルで事業を継続していくためには、多様な人材の起用は重要だと考えており、グローバル人材の育成に努めています。一方、日本から海外現地法人に出向する社員に対しては、語学研修のほか、様々な赴任前教育を実施しています。通常の赴任期間は3～5年ですが、本人の希望により赴任期間を延長するケースもあり、異国の文化や習慣の中で、大きなやりがいをもって成長する社員も多くいます。また、2018年より現在にかけてベトナムからの技能実習生として男性社員を計14名受け入れています。
この他、生産部門、技術部門、開発部門や管理部門など様々な分野に女性や外国人が従事しており、性別によらず活躍できる環境づくりを推進しています。2023年は、インドネシアからの技能実習生として女性社員を受け入れ、働きやすい環境づくりのために、女子更衣室の大幅なリフォームなども行いました。

●シニア層の活躍

定年退職者が在職中に身につけたスキルやノウハウは貴重な財産であり、次世代に伝承していく必要があります。
こうした観点から当社は定年再雇用制度を導入しています。
退職前に、上長との面談で再雇用後の働き方について本人の希望を聞き、再雇用後にスムーズに業務に取り掛かることができるようにしています。毎年、働き方や業務内容を見直し、臨機応変に契約内容を見直すこともでき、業務での活躍ばかりでなく、後進育成の一翼を担ってもらっています。2023年は、定年再雇用者の処遇改善も行いました。

60歳以上在籍者数
（再雇用契約者含む）　2023年4月 **56名** ▶ 2024年4月 **61名**

社 会

SOCIETY

人材育成

●人事制度

自動車業界は100年に一度の大変革期を迎えていますが、当社がこの大変革期の中で持続的に成長するためには、人材育成が不可欠と考えています。当社の人事制度は、「育成」、「評価」、「処遇」の3つの制度で構成されており、これらが有機的に連携して良いサイクルを生み出すことによって、効果的な人材育成に繋げています。中でも育成制度は、階層別や分野別の教育・研修会、問題解決やグローバル人材育成などの目的別教育を導入しており、人材育成には計画的にきめ細かく対応しています。

■人事制度体系

●研修について

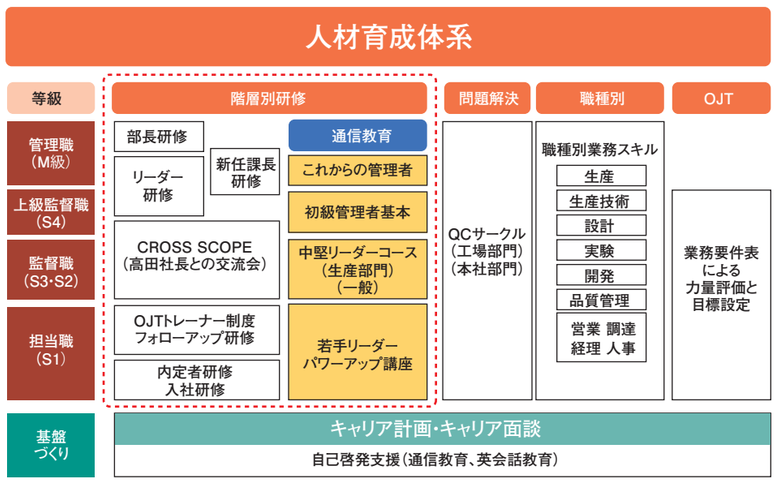
当社は階層別研修として、新入社員研修、中堅監督職研修やリーダー研修、新任課長、部長、役員に向けたマネジメント研修などを実施しています。新入社員研修では、社会人としての基本姿勢を養うビジネスマナーから、新入社員が早期に職場に馴染み、活躍するための業務説明や工場実習を行っています。

中堅監督職（係長、工長）研修は、期待される役割の認識、役割遂行に必要な知識・考え方の習得を目的として実施しています。リーダー（次長、課長）研修やマネジメント研修は、次世代のリーダーを育成すべく、意識改革とマネジメント力向上を目的に行っています。

上司、部下、関係部署からの多面評価を取り入れていますが、多面評価は「気づき」も多く有意義であり、他の階層の研修でも実施すべく検討を行っています。

また、2021年度から若手社員や中堅社員が経営者の考えを直接聞き、会社のビジョン、あるべき姿を捉えながら会社への興味関心を高め、チャレンジ意識を育むことを目的とした「社長との交流会」がスタートしています。そのほか、工場のリーダー育成を目的とする問題解決教育や、グローバルで活躍できる人材の育成、安全、コンプライアンス、メンタルヘルスなどの分野別の研修を定期的に行い、“人財”の強化を図っています。

■教育研修の体系



社長との交流会：若手社員研修

リーダー研修

地域社会への貢献

●交通安全活動（立哨活動）

毎月1回交通事故ゼロの日に合わせ、本社周辺の交通量の多い交差点で、シートベルト装着やスマホながら運転防止の呼びかけ、歩行者への挨拶運動を行っています。ドライバーの方々や歩行者の方々の安全意識向上とともに、参加者自身の意識向上に寄与するものとして実施しています。自動車業界に属する企業として、従業員自身はもちろん家族、仲間から一人の加害者も被害者も出さないという思いを込めて取り組んでいます。

●安全衛生・挨拶運動

毎年、安全週間（7月）と衛生週間（10月）に、本社東門および近隣道路交差点にて立哨活動を実施しています。本社従業員へ声掛けを行い、安全衛生意識の向上・安全行動の促進を図っています。

●地域との交流

当社の工場では、地域交流活動の一環として、地元の方々を招いた工場見学会などを開催しています。2020年から2021年度はコロナ禍でしたので、HOWA社員が小学校に出張し、動画で当社の工場紹介や製造過程などを説明する授業を行いました。2022年度と2023年度は地元の小学生と高校生を招き、HOWA工場内の見学会を行いました。

本社では地域住民の安全対策として、接面道路の歩行者や車との接触を未然に防ぐためのミラーやパトライトを設置しています。

また、交通安全市民運動や工業団地内の清掃活動など、地域行事への参加や周辺道路のパトロール、除草や樹木の伐採なども引き続き行っています。

地域の小学生・高校生への工場見学会

工業団地内清掃活動

小学生への動画授業・出張授業

ガバナンス

GOVERNANCE

リスクマネジメント

●当社の安定供給への取組（BCP）

BCPとは、地震や火災など不測の事態が発生した際、社員の安全確保と製品供給を維持し、事業を継続することを通して企業の社会的責任を果たしていくための計画を指します。

- 主管部門は発生した事態の状況を調査し、分類されたリスクに該当すると判断した場合に対策本部が設置されます。
- 主管部門はリスクに応じて対策本部のメンバーを指名し、対策の取りまとめを行い、対策本部長が全ての決定権を有して緊急事態の対応に当たります。
- 分類されたリスクごとに定期的に緊急事態対応テストが実施されています。

火災発生時

- 初動対応を迅速に行えるよう各拠点で自衛消防隊を組織し、連絡班、初期消火班や避難誘導班、応急救護班など役割分担を予め定め、有事の際の体制を整えています。

社員の安全確認

- 災害発生時に社員とその家族の安否を確認し、被害の状況を確認する安否確認システムをHOWAグループ全社に導入しています。
- いつ災害が起きても社員が慌てることなく使用できるように、安否確認システムの使用訓練を定期的に行っています。このシステムは、安全確認とともに事業を維持する陣容を確保するためにも重要なものとなっています。

●防災訓練の実施

当社は、今後発生が懸念されている南海トラフ大地震などの災害に備えて、防災訓練を毎年実施しています。

- 迅速な屋外への避難訓練、従業員の安否確認訓練
- 消火器・消火栓、自家発電機、泡消火設備操作訓練
- 通報訓練、AEDの使用訓練など

工場での訓練では、総括責任者が地震対策本部を設営し、警戒連絡班や情報・危険物・公害・電気設備・ウレタン設備責任者、救急班、施設点検班などの係りと班を設けています。それぞれの任務確認を行い、被災者の担架による搬送、応急手当を行う救急処置訓練など、各班による行動訓練を実施しています。自家発電機訓練では、手動で発電させる訓練と停止訓練を行い、自家発電で動く消火栓の操作方法を確認しました。

本社での訓練では、避難、安否確認、消火訓練の他に、各部署1名による構外避難場所の確認と避難経路の確認を取り入れています。

また、通常の消火器操作訓練とは別に、技術部門のメンバー全員が消火器を操作する訓練を5回に分けて実施しました。自身の安全を確保しながら消火活動が行える火災規模や使用した消火器の適切な対処方法を学びました。

●救出、救護訓練の実施

2023年は、本社で救助担架を使った搬送訓練やAEDの使用訓練を重点的に行いました。

搬送訓練

本社の管理本部、技術本部、生産本部より各5名ずつのグループになり、収納袋の中に折りたたんである担架を組み立てたり、実際に搬送者を一定の位置まで運ぶ訓練を行いました。

救護訓練

救護訓練の一環として、救命講習会を実施しました。
講習では、胸骨圧迫法とAEDの取扱い方法の他、
以下のような処置に関する重要なポイントや知識を習得しました。

- AEDが有効なのは心室細動など
- 胸骨圧迫する際は負傷者の肋骨骨折をおそれない（骨折は治る）で、躊躇せず救命措置を行う
- 胸骨圧迫の目的は、体中に血液を送り続けること

本社内はもちろん、工場等に出向いたとき、災害等において事案に遭遇したときには、戸惑うことなく処置ができるよう、今後も定期的に実施することを検討しています。

●防災備蓄品の管理

災害時などでダメージを受けた設備の復旧要員や帰宅困難者のために、社内に長期保存用の非常用食料、飲料水や毛布、災害救助用工具、発電機などを備えています。
有事の際、被害を最小限に抑えて事業活動を継続するために、日頃から整備に努めています。また、屋外に防災品の保管庫を設け、毛布等の必要物資を保管して災害に備えています。

●緊急事態対応訓練の実施

IATF16949の求める緊急事態対応訓練を毎年行っています。訓練は、①主要設備停止、②外製品仕入先の供給停止、③鋼製部材仕入先の供給停止、④災害及び設備インフラの停止、⑤ITインフラの停止、⑥サイバー攻撃、⑦顧客への輸送管理について、社内規定に基づいて行います。そのうちの一部の訓練として、2023年度は、①主要設備停止について訓練を実施しました。今回は、当社愛知県内にある工場で災害が発生し、被災した想定で訓練を実施しました。被災工場から生産本部への連絡と初期対応、生産本部では緊急事態対応本部を設置し関係部門長の招集、被災工場では顧客への納入に問題が生じないか、工場内他設備での代替生産の可否確認などを速やかに行い、緊急事態対応本部へ連絡、他工場へ移管の可否、対応計画など検討のうえ、顧客へ報告。訓練では、これらのフローのなかで「やり難さ」などにも注目して、改善点を洗い出し、対策を検討し、万が一に備えています。

●情報セキュリティ

「機密管理規程」「機密保持テキスト」などを整備し、情報セキュリティ、機密管理について機密保持委員会を中心とした体制を敷いています。また、昨今のサイバー攻撃に対処するため、AI挙動監視、生体認証、メール・ブラウザの検疫機能などを採用し、未知のウィルスにも対応することができるシステムをパソコン・スマートフォンへ導入しています。
日本自動車工業会（JAMA）および日本自動車部品工業会（JAPIA）が共同で発行した「自工会/部工会サイバーセキュリティガイドラインV2.1」に則り、ICカードによる機密エリアへの入退場管理、機密情報の管理手法、取引先との機密保持契約など様々なルールを定め的確な運用に努めています。標的型攻撃メールへの対応訓練を定期的に実施して、従業員のセキュリティ意識向上に取り組む一方、ガイドラインへの準拠の度合いを毎年自己評価で測り、継続的なレベルアップを目指しています。

ガバナンス

GOVERNANCE

コンプライアンス

●コンプライアンス周知に向けた取組

当社は倫理規程を制定し、当社役職員が遵守に努めなければならない内容を定め、啓蒙活動を継続しています。各部門長を倫理、法令等遵守の責任者とし、所属員へのコンプライアンスに関する指導を行う体制をとっています。
加えて、コンプライアンス研修を毎年継続し、役職員へのコンプライアンス意識の浸透・定着に努めています。
このマニュアルは毎年内容を見直し、法令や社会情勢に沿った最新の内容を社内で共有しています。
また、コンプライアンスについて考える機会を設けるため、社員に対して法令改正情報や事例などをまとめた文書を定期的に配布しています。社内報では、社内規程の改定や社会情勢についてのタイムリーな記事を掲載し、これらを通じてコンプライアンスについて学び、考えることができる体制を整えています。
なお、当社は反社会的勢力との関係断絶のため、法令および行政機関等の指導に従い、反社会的勢力の排除に関する覚書を取引先と取り交わしています。

●コンプライアンス研修

コンプライアンス研修は、HOWAグループに所属する全役職員を対象とし、コンプライアンスの重要性、遵守すべき法令等の説明を毎年実施しています。
当社グループでは、コンプライアンスに基づいた業務を行うため、国内向けの研修においては、全従業員向けの一般的な研修と、一定の事項を深く講義する専門的な研修を用意しています。
一般的な研修は、全従業員が受講するものであることをふまえ、動画や事例を用いるなど分かりやすさを重視した内容としています。ハラスメントに関することは毎年研修内容に含んでおり、ハラスメント予防に積極的に取り組んでいます。また、当社において重要な法令と位置付けている下請法についても、当社における相談事例を用いて、下請法についての基本的な考え方や、どうすればよいのかという点について重点的に講義しています。
専門的な研修は、過去に「パワーハラスメント」や「契約」について実施しています。この研修では、法律の内容から丁寧に説明し、業務にどのような意味があるのか、どのように対応しなければならないのか、を深く具体的に講義するものです。対象者は、研修の内容に関係する者から選抜して実施しています。

コンプライアンス研修受講者数 **1,051名**
（2023年度・国内グループ全体）

●汚職・贈収賄防止

当社は倫理規程において、取引業者との公正取引を定め、癒着の禁止、業務上の利害関係者への経済的利益および便宜等の供与や収受の禁止を定め、汚職や贈収賄の禁止を徹底しています。

●個人情報保護

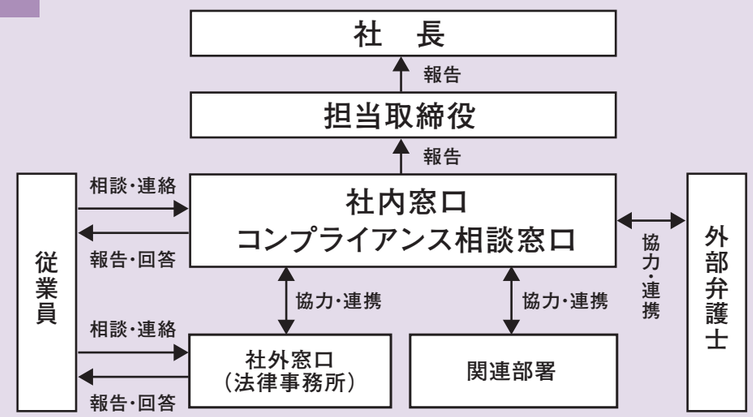
個人情報の適切な取扱いを図り、個人の利益を保護するために「個人情報取扱規程」を定めています。お客様やお取引先の方々などの個人情報を厳正に取り扱うためにプライバシーポリシー（個人情報保護方針）をホームページで公開し、役職員一同がこれを遵守し、お客様からお預かりする個人情報の保護に万全を尽くしています。

●内部通報制度

法令違反や社内不正、社内規程に違反する行為やこれらが疑われる行為に関する相談、通報窓口として、コンプライアンス相談窓口を設けています。
社内と社外に窓口をそれぞれ設置し、通報専用のメールアドレスや郵送先を設定、社外窓口は弁護士としており、通報者や相談者のプライバシーが保護され、相談しやすい環境を整えています。

内部通報件数
（2023年度・国内グループ全体） **4件**

制度概要



あとがき

「CSRレポート2024」をお読みいただき、ありがとうございました。このレポートは、HOWAグループのCSR活動をご紹介するレポートとして編集しています。日本と世界各地のHOWAグループ各社を報告対象としていますが、個々の報告項目によりその範囲は異なります。
なお、このレポートには当社の将来に向けての方針や考え方も含まれますが、これらは当社が現時点で収集可能な情報から判断した事項です。実績は異なる可能性があります。

【発　　行】2024年9月
【対 象 期 間】2023年4月1日から2024年3月31日まで。
ただし、一部の記載は当該期間前後の活動内容を含みます。
【問い合わせ先】総務部 法務・CSR推進課

株式会社HOWA
〒486-0969 愛知県春日井市味美白山町2丁目10番地の4
TEL 0568-34-8180（代表）
https://howagrp.com